

第10回国際グリム賞記念講演会

「児童文学における「力」～誰のために？何のために？～」

Children's Literature: Subject, Voice and Power

11月13日(日)に、第10回国際グリム賞授賞式(13:00-13:30)および記念講演会(13:30-15:30)が、150名ほどの出席者を伴って行われました。国際グリム賞は、国際的分野で児童文学界に貢献した研究者に対し、隔年で贈られる賞です。第10回受賞者は、比較児童文学の優れた研究者であり、児童文学史、ファンタジー、絵本論など注目すべき刺激的な著作を多数発表されているマリア・ニコラエヴァ博士に決定しました。

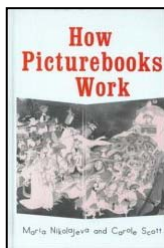
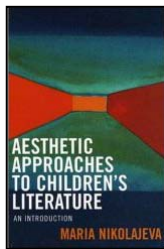
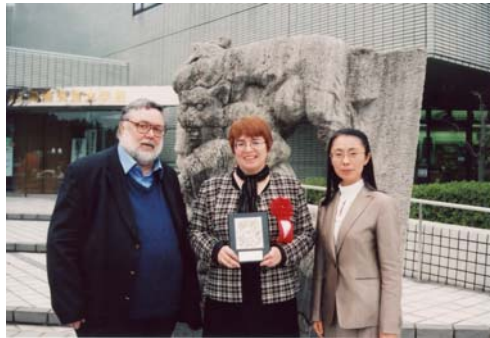


マリア・ニコラエヴァ博士、ストックホルム大学教授

今回の講演では、児童文学とは子どもを教化するためにあるのか、子どもの楽しみのためにあるのかといった従来の議論を、『長くつ下のピッピ』をはじめ、数多くの児童文学作品を引用しながら、「主体」「声」「力」といった視点から切り込んだ、示唆に富んだものとなりました。



講演の後には、日本イギリス児童文学学会研究大会プログラムのひとつとして、ニコラエヴァ教授との対話の時間「ニコラエヴァ博士に聞く」(三宅興子氏)がもたれました。会場からの質問も汲み上げられ、ニコラエヴァ教授の視点や解釈、講演内容をより深く理解することができる刺激的なひとときとなりました。



マリア・ニコラエヴァ博士 (Dr. Maria Nikolajeva)

1952年ロシア生まれ。1981年よりスウェーデンに住む。ストックホルム大学文学・歴史学科教授。国際児童文学学会(IRISCL)会長(1993-97)として会の発展に多大なる貢献をし、児童文学協会(ChLA)では紀要の国際コラム(各国の研究状況を紹介)を担当。さらに、児童文学研究の国際ネットワーク(NorChilNet)のコーディネーターとして北欧圏にとどまらない活動を行っている。

主要著書：『児童文学への審美的アプローチ入門』(*The Aesthetic Approach to Children's Literature: An Introduction*, 2005)、『児童文学における人物のレトリック』(*The Rhetoric of Character in Children's Literature*, 2002)、『絵本の仕組み』(*How Picturebooks Work*, 2001)、『神話からのつながり：児童文学における時間』(*From Mythic to Linear: Time in Children's Literature*, 2000)など。邦訳書はなし。

国際グリム賞は、1986年、大阪府立大手前高等学校創立100周年記念事業として同校同窓会(財)金蘭会の基金により設置され、その趣旨を推進する(財)大阪国際児童文学館との共催事業として実施されています。